# 安全データシート

## 1．製品及び会社情報

製品の名称 **ダイハツ純正アミックスロングライフクーラント高防錆力タイプ(ピンク)**
推奨用途 液冷式内燃機関用冷却液
使用上の制限 推奨用途以外には使用しないこと。

会社名 協和商工株式会社
住所 〒595-0062 大阪府泉大津市田中町10-7
電話番号 0725-21-5767
FAX番号 0725-21-7827

## 2．危険有害性の要約

GHS分類

| | | |
|---|---|---|
| 物理化学的危険性 | － | |
| 健康に対する有害性 | 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 | 区分２A |
| | 皮膚感作性 | 区分１ |
| | 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | 区分１(中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器)<br>区分２(血液)<br>区分３(気道刺激性、麻酔作用) |
| | 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | 区分１(中枢神経系、呼吸器、心臓) |
| 環境に対する有害性 | 水生環境有害性短期（急性） | 区分３ |

※上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、「区分に該当しない」又は「分類できない」に該当する。なお、これらに該当する場合は後述の１１項に記載した。

GHSラベル要素

注意喚起語 危険

危険有害性情報

| | |
|---|---|
| H316 | 軽度の皮膚刺激 |
| H319 | 強い眼刺激 |
| H317 | アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ |
| H370 | 臓器(中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器)の障害 |
| H371 | 臓器(血液)の障害のおそれ |
| H335+H336 | 呼吸器への刺激のおそれ、または、眠気やめまいのおそれ |
| H372 | 長期にわたる、又は、反復ばく露による臓器(中枢神経系、呼吸器、心臓)の障害 |
| H402 | 水生生物に有害 |

注意書き：

【安全対策】

| | |
|---|---|
| P264 | 取扱い後はよく手を洗うこと。 |
| P280 | 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。 |
| P272 | 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 |
| P260 | ミスト、蒸気を吸入しないこと。 |
| P270 | この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 |
| P271 | 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 |
| P273 | 環境への放出を避けること。 |

【応急措置】

| | |
|---|---|
| P305+P351 | 眼に入った場合：水で１５分以上注意深く洗うこと。次に、 |

| | |
|---|---|
| +P338 | コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 |
| P337+P313 | 眼の刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受けること。 |
| P333+P313 | 皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診察、手当てを受けること。 |
| P308+P311 | ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。 |
| P304+P340 | 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 |
| P302+P352 | 皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。 |
| P362+P364 | 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。 |
| P314 | 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。 |
| 【保管】 | |
| P405 | 施錠して保管すること。 |
| P403+P233 | 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 |
| 【廃棄】 | |
| P501 | 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。 |

## 3．組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別　：混合物
化学特性・危険有害性成分：含有成分及び濃度

| 化学名 | 濃度 wt% | CAS No. | 化審法 No. | 安衛法 | | PRTR法 | 毒劇法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 表示対象物 | 通知対象物 | | |
| エチレングリコール | 88 | 107-21-1 | 2-230 | 該当 | 該当 | 非該当 | 非該当 |
| 水酸化カリウム | 3以下 | 1310-58-3 | 1-369 | 非該当 | 非該当 | 非該当 | 非該当 |
| リン酸 | 1未満 | 7664-38-2 | 1-422 | 非該当 | 非該当 | 非該当 | 非該当 |
| その他 | 7～12 | 非公開 | 非公開 | 非該当 | 非該当 | 非該当 | 非該当 |

化審法No.　：化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）官報公示整理番号
安衛法　：労働安全衛生法
PRTR法　：特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律
毒劇法　：毒物及び劇物取締法

## 4．応急措置

吸入した場合　：多量に蒸気・ミスト等を吸い込んだ場合、直ちに空気の新鮮な場所に移し、保温して安静にすること。もし呼吸が不規則な場合や吐き気がする場合は、速やかに医師の診察を受けること。
皮膚に付着した場合　：付着液を紙、布にて素早く拭き取り、多量の水及び石鹸または皮膚用洗浄剤を使用して十分洗い落とすこと。外観に変化が見られたり、痛みがある場合は医師の診察を受けること。
眼に入った場合　：直ちに多量の清浄な流水で瞼の裏まで１５分以上洗眼すること。その後、医師の診察を受けること。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄すること。
飲み込んだ場合　：口をすすぐこと。無理に吐かせないで、直ちに医師の診察を受けること。

危険症状及び遅発性症状の最も重要な微候症状：
主原料（エチレングリコール）の中毒症状としては、次のような症状が発現する。
摂取後30分～12時間　：中枢神経系及び代謝系の障害。エタノールの酩酊状態に似た症状。痙攣、昏睡、脳浮腫、代謝性アシドーシス、低カルシウム血症、蛋白尿が現れる。重篤、な症状の場合には結晶尿がみられる。
摂取後12時間～36時間：頻呼吸、チアノーゼ、肺水腫、心臓肥大。
摂取後36時間～72時間：腎不全の兆候、慢性吸入の場合、意識障害、眼振、リンパ球増加症。

## 5．火災時の措置

適切な消火剤　：水、炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、その他（ハロゲン消火剤）
使ってはならない消化剤　：棒状注水
特有の消火方法　：可燃性のあるものは周囲から速やかに取り除くこと。消火作業は風上から行うこと。大規模火災には水または泡消火剤を使用のこと。

消火を行う者の具体的な保護具及び予防措置 ： 適切な保護具（耐熱性着衣、手袋、呼吸保護マスク等）を着用すること。

## 6．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 ： 風下の人を退避させること。漏洩した場所の周辺にはロープを張る等して人の立ち入りを禁止すること。
作業の際、保護手袋、保護マスク、保護前掛け等を着用すること。
屋内で漏洩した場合は、窓、ドアを開けて十分に喚気を行うこと。

環境に対する注意事項 流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を及ぼさないようにすること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収・中和 ： 少量の場合、おがくず、ウエス、砂、紙等を用いて吸着させて空容器に回収すること。
その後、漏出区域周辺を大量の水で洗い流すこと。
洗浄した水等は、地面や排水溝等にそのまま流さないこと。
多量の場合は、土のうなどで流出を防ぎ、ポンプなどで回収すること。

二次災害の防止策 ： 周辺の着火源となるものを速やかに取り除くこと。

## 7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 ： 適切な保護具(保護手袋、保護マスク、保護前掛け、ゴーグル等)を着用すること。
指定数量以上の危険物を取り扱う場合は、法に定められた基準を満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行うこと。数量指定未満の場合は、都道府県条例等に従うこと。
火気厳禁。周辺での火気・スパーク・高温物の使用は避けること。

安全取扱注意事項 ： 換気のよい場所で使用し、容器はその都度密栓すること。
他の薬品類（特に強酸化剤、強塩基、強酸）との混合は行わないこと。

接触回避 ： 『１０．安定性及び反応性』を参照。

衛生対策 ： 取扱い後は、よく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件 ： 密栓し、風通しの良い冷暗所に保管すること。
強酸化剤、強塩基、強酸から離しておくこと。
種の異なる危険物と同一の貯蔵所に貯蔵しないこと。

安全容器包装材料 ： 密栓できるもの。ガラス瓶、金属缶、プラスチック缶などが望ましい。

## 8．ばく露防止及び保護措置

濃度基準値 ： 製品に関する有用な情報なし。

許容濃度 ： 組成成分のばく露限界を記載する。

設備対策 ： 工場内で取り扱う場合は、換気が十分取れる設計にすること。
ライン設備の場合は、液の輸送、汲み取り、撹拌等の装置にアースを取ること。

追加情報：組成成分のばく露限界を記載する。

| | 濃度基準値 | | 管理濃度 | 許容濃度 |
|---|---|---|---|---|
| | 8時間濃度基準値 | 短時間濃度基準値 | | ACGIH |
| エチレングリコール | 10ppm | 50ppm | 設定なし | 100mg/m$^3$ (TLV-C) |
| 水酸化カリウム | 設定なし | 設定なし | 設定なし | 2mg/m$^3$ (TLV-C) |
| リン酸 | 1mg/m$^3$ | 設定なし | 設定なし | 1mg/m$^3$ (TLV-TWA) |

保護具

手の保護具 ： 不浸透性の保護手袋を着用すること。

目の保護具 ： 適切な保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具 ： 不浸透性の保護衣、保護面を着用すること。

呼吸器の保護具☒ ： 適切な呼吸器保護具を着用すること。

特別な注意事項 ： 取り扱い後は、よく手を洗うこと。

## 9．物理的及び化学的性質

物理状態 ： 液体

| | |
|---|---|
| 色 | ：ピンク色 |
| 臭い | ：かすかな甘味臭 |
| 融点/凝固点 | ：-27℃ |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | ：164℃ |
| 可燃性 | ：製品としてデータなし |
| 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 | ：製品としてデータなし |
| 引火点 | ：126℃ |
| 自然発火点 | ：製品としてデータなし |
| 分解温度 | ：製品としてデータなし |
| ｐH | ：8.0（原液） |
| 動粘性率 | ：17.5mm/s(25℃) |
| 溶解度 | ：水と任意の割合で混和する |
| n-オクタノール/水分配係数(log値) | ：製品としてデータなし |
| 蒸気圧 | ：製品としてデータなし |
| 密度及び又は相対密度 | ：1.130 g/cm$^3$ (20℃) |
| 相対ガス密度 | ：製品としてデータなし |
| 粒子特性 | ：非該当 |

追加情報：以下に主原料（エチレングリコール）物理的及び化学的性質を示す。

| | |
|---|---|
| 発火点 | ：404℃（測定法ASTM E 659） |
| 爆発特性 | ：爆発限界は、下限3.2%、上限15.3% |
| 蒸気圧 | ：7Pa（20℃） |
| 蒸気密度 | ：2.1（空気＝1） |

## 10. 安定性及び反応性

| | |
|---|---|
| 反応性 | ：酸化性なし、自己反応性なし、爆発性なし |
| 化学的安定性 | ：常温では安定 |
| 危険有害反応可能性 | ：強酸化剤、強塩基と反応することがある |
| 避けるべき条件 | ：加熱 |
| 混触危険物質 | ：データなし |
| 危険有害な分解生成物 | ：一酸化炭素 |

## 11. 有害性情報

※下記有害性情報は、JIS Z 7252により混合物としてのGHS区分を分類した結果に基づく。

| | |
|---|---|
| 急性毒性 | ：（経口）2000＜LD50≦5,000mg/kgより、区分5<br>（ＪＩＳ分類では区分に該当しない）<br>（経皮）LD50＞5000mg/kgより、区分に該当しない<br>その他急性毒性は、データ不足により、分類できない、<br>または、区分に該当しない |
| 皮膚腐食性／刺激性 | ：区分３成分≧10%より、区分３（ＪＩＳ分類では区分に該当しない） |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | ：区分２成分≧10%より、区分２A |
| 呼吸器感作性 | ：データ不足により、分類できない |
| 皮膚感作性 | ：区分１成分≧0.1%より、区分1 |
| 生殖細胞変異原性 | ：区分２成分＜1.0%より、区分に該当しない |
| 発がん性 | ：データ不足により、分類できない |
| 生殖毒性 | ：区分１成分＜0.3%、区分２成分＜3.0%より、区分に該当しない |
| 特定標的臓器毒性 | |
| 単回ばく露 | ：区分１成分≧10%より、区分１（中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器）<br>区分２成分≧10%より、区分２（血液）<br>区分３成分≧20%より、区分３（気道刺激性、麻酔作用） |
| 反復ばく露 | ：区分１成分≧10%より、区分１（中枢神経系、心臓、呼吸器） |
| 誤えん有害性 | ：データ不足により、分類できない |

## 12. 環境影響情報

生態毒性

| | |
|---|---|
| 水生環境有害性 短期(急性) | ：区分1成分x100+区分２成分x10+区分３成分≧25%より、区分３ |

| | |
|---|---|
| 水生環境有害性 長期(慢性) | ： 区分３成分、区分外≦25%より、区分に該当しない |
| オゾン層への有害性 | ： 製品として情報なし |
| 残留性・分解性 | ： 製品として情報なし |
| 生態蓄積性 | ： 製品として情報なし |
| 土壌中の移動性 | ： データ不足により、分類できない |
| 他の有害影響 | ： 製品として情報なし |

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物　：廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理すること。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。

汚染容器・包装　：容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

**国際規制**

海上規制情報 (IMDG)

| | |
|---|---|
| 国連番号 | ： 非該当 |
| 品名 | ： ― |
| 国連分類 | ： ― |
| 容器等級 | ： ― |
| 海洋汚染物質 | ： ― |

航空規制情報 (ICAO/ IATA)

| | |
|---|---|
| 国連番号 | ： 非該当 |
| 品名 | ： ― |
| 国連分類 | ： ― |
| 容器等級 | ： ― |
| | ― |

国内規制

| | |
|---|---|
| 陸上規制情報 | ： 消防法の規定に従う |
| 航空規制情報 | ： 非危険物 |
| 海上規制情報 | ： 非危険物 |

特別の安全対策　：輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み荷くずれの防止を確実に行うこと。

緊急時応急措置指針番号　：171

## 15. 適用法令

法規制

| | |
|---|---|
| 消防法 | ： 危険物第4類第3石油類　危険等級Ⅲ（水溶性） |
| 労働安全衛生法 | |
| ・名称等を表示/通知すべき危険物及び有害物 | ： エチレングリコール |
| ・有機則 | ： 非該当 |
| ・特化則 | ： 非該当 |
| ・がん原生物質 | ： 非該当 |
| ・皮膚刺激性有害物質 | ： 水酸化カリウム（閾値未満の為非該当） |
| ・皮膚吸収性有害物質 | ： エチレングリコール |
| ・皮膚（特化則） | ： 非該当 |
| 劇物及び毒物取締法 | ： 非該当 |
| 化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） | ： 非該当 |
| 船舶安全法 | ： 非該当 |

| | |
|---|---|
| 航空法 | ：非該当 |
| 海洋汚染防止法 | ：非該当 |
| 廃棄物処理法 | ：産業廃棄物規制 |

※必ず当該地域の法規制をご確認ください。

## 16. その他の情報

引用文献

JIS Z 7252:2019 GHS に基づく化学物質等の分類方法
JIS Z 7253:2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル
原料メーカーの SDS
日本化学工業協会 GHS 対応ガイドライン 2019 年 6 月
経済産業省 事業者向け GHS 分類ガイダンス（平成 25 年度改訂版）
溶剤便覧
危険防災救急便覧
急性中毒処置の手引き

※注意
記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。